

令和 6 年 5 月 30 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01255

研究課題名(和文) 代名詞代用・呼びかけ表現の通言語学的研究

研究課題名(英文) A cross-linguistic study of pronoun substitutes and address terms

研究代表者

齋藤 スニサー (SAITO, Sunisa)

東京外国語大学・世界言語社会教育センター・教授

研究者番号：60791671

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本語の「お母さん」のように、人称代名詞(「私」「あなた」)ではないものの、話し手・聞き手を指示する「代名詞代用表現(pronoun substitute)」およびそれと関連の深い「呼びかけ表現(address term)」について、8言語(日本語、朝鮮語、マレー語、インドネシア語、ジャワ語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語)を対象とし、通言語的研究を行った。「どのような表現が代名詞代用表現・呼びかけ表現として用いられるか？」という問いを立て、個別言語レベル、通言語レベルで、多言語の専門家が協同で記述・分析、言語資源構築を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

代名詞代用表現は、日本語では非常に発達しているものの、印欧語や華語諸語では発達していない。そのため、これまでその言語学的研究は個別言語レベルのものが中心であった。また、代名詞代用表現は日本語や朝鮮語といった個別言語に特異な現象とみなされ、一般言語学的な現象としては注目されてこなかった。本研究では、代名詞代用表現が発達した8言語を対象に通言語的な研究を行うことで、一般言語学的な知見が得られたほか、個別言語研究を深めることもできた。さらに、本研究では、代名詞代用・呼びかけ表現の語彙資源やコーパスへのアノテーションを行い一般公開した。これらは、言語学のみならず自然言語処理においても利用可能である。

研究成果の概要(英文)：In this study, we conducted a cross-linguistic study of pronoun substitutes and address terms in eight languages (Japanese, Korean, Malay, Indonesian, Javanese, Thai, Vietnamese and Burmese). Pronoun substitutes are not personal pronouns ("I", "you"), but refer to the speaker and addressee like personal pronouns. The examples of pronoun substitutes include "okaasan" 'mother' in Japanese. Our big research question was: "What kinds of expressions are used as pronoun substitutes and address terms?" We, as a group of experts in multiple languages, collaborated in the description and analysis of the relevant data as well as the construction of language resources at the individual language level and at the cross-linguistic level.

研究分野：外国語教育、タイ語

キーワード：代名詞代用表現 呼びかけ表現 言語学 言語資源開発 アジア諸語

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究では、「代名詞代用表現 (pronoun substitute)」と「呼びかけ表現 (address term)」の2つの現象を取り上げる。代名詞代用表現とは、(i)で二重線を付した表現のように、話し手・聞き手を指示する(自称・対称)人称代名詞以外の表現をいう。呼びかけ表現は、(i)で一重線を付した表現のように、聞き手を発話の伝達先として同定する表現である。

- (i) a. お母さん、お母さん のお兄ちゃんの名前、何だっけ？
呼びかけ 代名詞代用
b. Mum, what was {your/*mum's} brother's name?

呼びかけ表現は、どのような言語にも存在する現象である。一方、代名詞代用表現が存在する言語は限られている。(ib)に示したように、英語では mum「お母さん」を代名詞代用表現として用いることができず、人稱代名詞を用いなければならない。

代名詞代用表現は、話し手・聞き手を指すため、それを持つ言語ではごく自然に、かつ頻繁に用いられる。そのため、個別言語の文法には必ず何らかの記述があり(日本語ならば田窪 1997 など)、語学学習書でもかなり初期段階で登場する。しかし、一般言語学においては、注目すべき現象として、通言語的な調査・考察がなされてはこなかった。そもそも、どの言語が代名詞代用表現を持つのかという情報すら、得るのが難しい。代名詞代用表現について通言語的に言われている特徴としては、「親族名称・職業名や固有名がよく用いられる」という程度で、それでは不十分である。

本研究で呼びかけ表現も同時に対象とするのは、(ia)でもそうであるように、代名詞代用表現と呼びかけ表現の間には重複が見られるからである。しかし、(ii)で「店員」が呼びかけには使えても、代名詞代用には使えないように、両者の分布は完全には重ならない。

- (ii) おい、店員、{お前/*店員}の計算、違うじゃないか。
呼びかけ 代名詞代用

このように、代名詞代用表現と呼びかけ表現は異なるものであるが、しかし両者の間には何らかの関係がある。その関係がどのようなものであるか、通言語的な考察はなされていない。

2. 研究の目的

- (1) 研究対象となる個別言語(日本語、朝鮮語、マレー語、インドネシア語、ジャワ語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語)において、どのような表現が代名詞代用・呼びかけ表現となり得るのかを明らかにする。
- (2) 8言語の言語事実に基づき、通言語的にどのような表現が代名詞代用・呼びかけ表現となり得るのかを明らかにする。
- (3) 代名詞代用表現を持つ言語の類型論的特徴を明らかにする。それにより、代名詞代用表現を持つ言語の候補を割り出し、代名詞代用表現研究の対象言語拡大につなげる。
- (4) 8言語の言語事実とそこから得られる通言語的一般化に基づき、代名詞代用・呼びかけ表現の理論的分析を行う。
- (5) 言語学的研究だけでなく、工学的応用研究・開発や言語教育にも利用可能な、言語資源を作成する。具体的には、各言語における代名詞代用表現の網羅的リストと主要コーパスへの代名詞代用表現・呼びかけ表現のアノテーションを作成する。

3. 研究の方法

(1) 用語・視点の整理

まず、日本語の先行研究をメンバー全員で議論し、共通の土台づくりを行った後、個別言語の先行研究の報告を通じ、言語間の用語・視点の共通点・相違点を全員で確認する。

(2) 用例・例文収集のための共通の枠組み設計

具体的な代名詞代用・呼びかけ表現の調査例文と調査リストの形式を決定する。それを用いて各言語である程度用例・例文を収集する。その後、各言語での収集結果を参考にしながら、言語間の比較を可能にするために、対象言語すべてで共通して調査する調査項目に含める意味(概念)を決定する。

(3) コーパスに対する代名詞代用・呼びかけ表現のアノテーション

まず、アノテーションを行うコーパスを各言語で選定する。適当なものがない場合はコーパスの作成を行う。

次に、必要な前処理、付与するタグ、アノテーションツールの仕様について議論する。アノテ

ーションツールを外注により作成する。ツールの完成後、研究補佐を雇用し、1 言語 4~5 名の体制でアノテーション作業を行う。

(4) 収集した用例・例文に基づく記述・分析

(2)、(3)による収集データおよび作業の過程から、得られた発見・知見を研究会で発表し、共有する。それを通じ、個別言語レベルおよび通言語レベルでの記述的な一般化を目指す。

4. 研究成果

(1) 言語資源

代名詞代用・呼びかけ表現の共通調査票

代名詞代用・呼びかけ表現が存在する可能性が高い概念 148 から成る調査票を作成した。各概念について、日本語概念、英語概念、Wordnet synset ID、意味カテゴリーの情報が与えられている。

公開 URL https://github.com/matbahasa/ProSub/blob/main/common_questionnaire.tsv

関連論文 岡野他(2022)

共通調査票に基づいて作成した 8 言語のデータセット

の共通調査票の各概念について、代名詞代用(自称、1 人称)、代名詞代用(対称、2 人称)、呼びかけ、敬称の用法が存在するかどうかを 8 言語で調査して、json と tsv 形式で公開した。用法が存在する場合には、例とその出典の情報も加えた。表現と例文には英語訳も付けた。このようなデータセットはこれまで存在せず、言語学や言語教育の実践において、ある概念について代名詞代用・呼びかけ表現が存在するかを言語間で比較したり、代名詞代用表現の実例を探したりといった使い方ができる。

公開 URL https://github.com/matbahasa/ProSub/blob/main/data_all_v2.0.json

https://github.com/matbahasa/ProSub/blob/main/data_all_v2.0.tsv

関連論文 谷口他(2022)

データセットを検索するためのサイト(右図)

json や tsv という形式を使いこなすのが難しい人もいるので、このデータセットを検索できるウェブサイトを構築した。このウェブサイトは、対象言語の話者も簡単に使えるように、研究対象の 7 言語(日本語、朝鮮語、マレー語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語)+英語の 8 言語のインターフェイスを用意した。

公開 URL <https://matbahasa.github.io/ProSub/>



共通調査票 + のデータセット

に加え、各言語で独自に調査したデータも公開した。合計 2,143 項目が収録されている。

公開 URL https://github.com/matbahasa/ProSub/blob/main/full_data.json

コーパスに対する代名詞代用・呼びかけ表現のアノテーション

自然談話の中で代名詞代用・呼びかけ表現がどのように使われているのかを明らかにするためにコーパスに対して代名詞代用・呼びかけ表現のアノテーションを行った。用いたコーパスとその語数は以下の通りである。

言語	コーパス	語数
日本語	日本語日常会話コーパス(小磯他 2022)	2,421,162
朝鮮語	皆のコーパス(話し言葉コーパス、日常対話コーパス 2020)	1,484,527
マレー語	新たに作成(会話、劇の台本)	39,265
インドネシア語	新たに作成(映画の字幕、会話)	32,870
タイ語	新たに作成(TV ドラマの台本、小説)	272,342
ベトナム語	新たに作成(会話、映画の台本)	146,521
ビルマ語	新たに作成(劇の台本)	10,675

事前調査の結果、日本語と朝鮮語以外では代名詞代用表現が多く用いられる話し言葉のコーパス(でオープンなもの)が存在しないことが分かった。そのため、これらの言語においてはコーパスの作成から始めなければならなかった。今回作成したコーパスは(ベトナム語以外は)公開済みであるため、今後、他の研究にも用いることが可能である。

アノテーションに用いたタグは「1st」(自称)、「2nd」(対称)、「address」(呼びかけ)の 3 つだけである。『日本語日常会話コーパス』には他にも少なくとも 5 種類のアノテーションが存在するが、短単位情報以外はデータのコア部分のみを対象としている。それに対し、本研究の代名

詞代用・呼びかけ表現は全データを対象とし、すべて人手でアノテーションとその確認作業をしている。

公開 URL <https://github.com/matbahasa/ProSub/tree/main/annotations>

関連論文 Nomoto et al. (2023)

(2) 構築した言語資源から得られた言語学的知見

まず、個別言語において、具体的にはどのような表現が代名詞代用・呼びかけ表現となり得るのかは、上記言語資源から情報が得られる。特に、代名詞代用表現については従来、少数の例が挙げられるのみであったが、本研究の結果、より網羅的に実例を知ることができるようになった。

次に、通言語的には、代名詞代用表現には「親族名称・職業名や固有名がよく用いられる」という先行研究の指摘が改めて確認された。ただし、言語間で詳細に違いがあることが判明した。特に日本語との共通点・相違点に焦点を絞ると、以下の4点が特徴的である。

人称の非対称性

すべての言語において、代名詞代用表現になる表現は自称(1人称)よりも対称(2人称)の方が多。例えば、日本語では「先生」や「お母さん」は自称としても対称としても用いることができるのに対し、「社長」のように対称としては使えても、自称としては使えないような語も多い。

親族名称の非対称性

日本語では親族名称のうち年上の方は代名詞代用表現になるのに対して年下の方はならないという非対称性があることが知られている(鈴木 1973)。例えば、「お母さん」や「お姉ちゃん」は代名詞代用表現として用いることができるのに対し、「子(供)」「息子」「娘」や「妹」は用いることができない。

(iii) 「あなたが作ったの？」の意で)

これ、{お母さん/お姉ちゃん/*子/*子供/*息子/*娘/*妹}が作ったの？

本研究の対象言語のうちこのような非対称性が見られたのは日本語だけであった。

職業名・役職名

日本語ではほぼすべての職業名・役職名がそのままあるいは「さん」などの敬称を付けた形で代名詞代用表現になり得る。この特徴は朝鮮語にもみられる。しかし、他の対象言語ではそこまでの生産性はなく、代名詞代用表現として用いることができる職業名・役職名は、言語ごとに程度の差はあるものの、ある程度限定されている。

代名詞代用表現と呼びかけ表現の関係

日本語では代名詞代用表現と呼びかけ表現の分布はほぼ一致する。このことに基づき、田窪(1997)は代名詞代用表現は呼びかけ表現から名前が落ちたものであると主張した。

(iv) 田中課長、田中課長はこの案件に賛成ですか。 (田窪 1997: 22)

しかし、マレー語・インドネシア語では逆に代名詞代用表現(となる名詞)を短縮すると呼びかけ表現となる。そのため、一方から他方を導くという分析は通言語的には難しい。これに関連し、Nomoto (2023)は敬称が人称代名詞と同じ統語的位置(D)を占めるという分析を提案した。この分析では、(iv)は普通名詞「課長」が「~課長」という敬称となる過程で当該統語的位置に移動した結果、敬称だけでなく人称代名詞としても使えるようになったと再分析できる。

と から、日本語では代名詞代用表現になり得るか否かには敬意の有無が重要であると言える。親族名詞であれば年上のものでなければならぬし、職業名・役職名であれば「先生」や「社長」のように元々敬意を含むか、「運転手さん」のように敬称を付して敬意を持たせる必要がある。ただし、注意しなければならないのは、どのような表現でも敬意を持たせて代名詞代用表現として使えるというわけではないということである。また、の人称の非対称性もある。したがって、代名詞代用表現になり得るか否か、なる場合に自称・対称どちらになるかは個別の語に符号化された情報であると言える。この点で代名詞代用表現は人称代名詞と共通している。

類型論的には、対象8言語すべてについて、人称代名詞が多数存在するという特徴がある。複数存在する人称代名詞の中には通常、元々は普通名詞であったものが含まれる。人称代名詞が複数存在するという点については、フランス語などの西欧語で2人称に親称と敬称の2種類があることがよく知られている(T-Vの区別)。このようなことから、代名詞代用表現は、その延長線上でさらに多くの人称代名詞が存在するようになった、人称代名詞の拡張のプロセスに付随するものであると考えることができる。

<引用文献>

- 岡野賢二, 野元裕樹, スニサーウィッタヤーパンヤーノン, トゥザライン, 春日淳. 2022. 「アジア三言語における代名詞代用・呼びかけ語の共通項目調査」『言語処理学会第 28 回年次大会発表論文集』, 69-73.
- 小磯花絵, 天谷晴香, 石本祐一, 居關友里子, 臼田泰如, 柏野和佳子, 川端良子, 田中弥生, 伝康晴, 西川賢哉, 渡邊友香. 「『日本語日常会話コーパス』の設計と特徴」『言語処理学会第 28 回年次大会発表論文集』, 2008-2012.
- 鈴木孝夫. 1973. 『ことばと文化』岩波書店.
- 田窪行則. 1997. 「日本語の人称表現」田窪行則(編)『視点と言語行動』, 13-41. くろしお出版.
- 谷口龍子, 大久保弥, 野元裕樹, 南潤珍. 2022. 「代名詞代用・呼びかけ表現の多言語データセット」. 『日本言語学会第 164 回大会予稿集』, 307-313.
- Nomoto, Hiroki. 2023. Honorific titles are D. In *Proceedings of the Linguistic Society of America*. Vol 8(1). 5523.
- Nomoto, Hiroki, Ryuko Taniguchi, Shiori Nakamura, Yunjin Nam, Sri Budi Lestari, Sunisa Wittayapanyanon (Saito), Virach Sornlertlamvanich, Atsushi Kasuga, Kenji Okano and Thuzar Hlaing. 2023. Pronoun substitute annotation in seven Asian languages. 『言語処理学会第 29 回年次大会発表論文集』, 2242-2247.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計45件（うち査読付論文 26件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 38件）

1. 著者名 ウィッタヤーパンヤーノン スニサー	4. 巻 107
2. 論文標題 タイ語の代名詞代用表現・呼びかけ表現：使用実態と日本でのタイ語教育に関して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 65～82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/0002000294	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Virach Sormlertlamvanich, Sunisa Wittayapanyanon (Saito)	4. 巻 1
2. 論文標題 Corpus Development for Pronoun Substitute and Address Term Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the 8th International Conference on Business and Industrial Research (ICBIR2023)	6. 最初と最後の頁 620-626
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/ICBIR57571.2023.10147532	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 谷口龍子	4. 巻 0
2. 論文標題 コロナ禍における首相記者会見演説の批判的談話研究 人称表現と発話の機能との関係を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ボズナン&クラフ日本学専攻科設立 35周年記念学会	6. 最初と最後の頁 299-310
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.48226/978-83-67287-73-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hiroki Nomoto	4. 巻 8
2. 論文標題 Honorific titles are D	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the Linguistic Society of America	6. 最初と最後の頁 5523
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3765/plsa.v8i1.5523	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Virach Sornlertlamvanich, Hiroki Nomoto, Sunisa Wittayapanyanon, Atsushi Kasuga, Kenji Okano, Wataru Okubo, Yunjin Nam, Yoshimi Miyake, Thuzar Hlaing, Ryuko Taniguchi, Sri Budi Lestari	4. 巻 1
2. 論文標題 Collaborative collection of multilingual pronoun substitutes and address terms	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of the 7th International Conference on Business and Industrial Research (ICBIR2022)	6. 最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/ICBIR54589.2022.9786494	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nomoto, Ryuko Taniguchi, Shiori Nakamura, Yunjin Nam, Sri Budi Lestari, Sunisa Wittayapanyanon (Saito), Virach Sornlertlamvanich, Atsushi Kasuga, Kenji Okano, Thuzar Hlaing	4. 巻 1
2. 論文標題 Pronoun substitute annotation in seven Asian languages	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語処理学会 第29回年次大会 発表論文集	6. 最初と最後の頁 2242-2247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshimi Miyake	4. 巻 63
2. 論文標題 Address terms as pronoun substitutes for speech act participants in Japanese and Javanese families	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Akita English Studies 63:13-28	6. 最初と最後の頁 13-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20569/00006006	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 スリ・ブディ・レスタリ, 三宅良美	4. 巻 28
2. 論文標題 ジャワ語に見られる対称表現 ショートムービーからの用例分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 インドネシア言語と文化	6. 最初と最後の頁 65-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野賢二, 野元裕樹, スニサー・ウィッタヤーバンヤーノン, トゥザライン, 春日淳	4. 巻 1
2. 論文標題 アジア三言語における代名詞代用・呼びかけ語の共通項目調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語処理学会 第26回年次大会 発表論文集	6. 最初と最後の頁 69-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 スニサー・ウィッタヤーバンヤーノン	4. 巻 27
2. 論文標題 代名詞代用表現・呼びかけ表現の通言語学的研究における共同調査項目検証結果 タイ語に関して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京外大 東南アジア学	6. 最初と最後の頁 103-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/117017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三宅良美	4. 巻 27
2. 論文標題 ジャワ語における呼びかけ語と一人称、二人称代名詞との微妙な関係についての試論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 インドネシア言語と文化	6. 最初と最後の頁 19-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野元裕樹, スニサーウィッタヤーバンヤーノン (齋藤), 岡野賢二, トゥザライン, 南潤珍, スリ・ブ ディ・レスタリ	4. 巻 25
2. 論文標題 代名詞代用・呼びかけ表現研究の現状: タイ語, ビルマ語, マレー語, インドネシア語, ジャワ語, 朝鮮 語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 語学研究所論集	6. 最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/100158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 谷口龍子	4. 巻 101
2. 論文標題 コロナ禍の首相記者会見に見られるパワー関係 人称代名詞「皆さん」と「行為要求」の共起を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 147-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/95721	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 スニサー ウィッタヤーバンヤーン (齋藤)	4. 巻 26
2. 論文標題 タイ語での代名詞代用表現・呼びかけ表現に関する考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京外大 東南アジア学	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/95672	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計59件 (うち招待講演 16件 / うち国際学会 31件)

1. 発表者名 Sunisa Wittayapanyanon, Virach Sornlertlamvanich
2. 発表標題 Pronoun substitutes and address terms in Thai language: Actual usage and education in Japan
3. 学会等名 International Conference on Language Education and Thai Studies 2023, The Faculty of Liberal Arts, Thammasat University (LATU) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 南潤珍
2. 発表標題 現代韓国語の話し言葉における親族名詞の用法について
3. 学会等名 第 74 回 朝鮮学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 南潤珍
2. 発表標題 朝鮮語における人称・呼びかけ表現の分布 テキストタイプ・人称の観点から
3. 学会等名 東京外国語大学国際日本研究センター対照日本語部門主催『外国語と日本語との対照言語学的研究』第40回 研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yoshimi Miyake, John Myhill
2. 発表標題 Addresssing expressions and pronouns in Balinese and Javanese
3. 学会等名 Symposium on Pronoun substitions and addressing expressions. Tokyo University of Foreign Studies. Center for International Japanese Studies
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 谷口龍子、中村菜、梅田里菜
2. 発表標題 日本語の自然会話における1・2人称主語の言語化の要因-発話機能と主語の意味機能を手がかりに
3. 学会等名 日本語用論学会第26回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中村菜、梅田里菜、谷口龍子
2. 発表標題 発話機能の種類と自称詞・対称詞の明示化
3. 学会等名 東京外国語大学国際日本研究センター対照日本語部門主催『外国語と日本語との対照言語学的研究』第40回 研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 谷口龍子
2. 発表標題 コロナ禍の首相記者会見で使われる人称表現 - 「みなさん」に何を伝えたいのか-
3. 学会等名 東京外国語大学国際日本研究センター夏季セミナー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Virach Sornlertlamvanich
2. 発表標題 Corpus development for pronoun substitute and address term study
3. 学会等名 China Japan Natural Language Processing Joint Research Promotion Conference (CJNLP)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Honorific titles are D
3. 学会等名 The 2023 Linguistic Society of America (LSA) Annual Meeting
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Virach, Sornlertlamvanich, Hiroki Nomoto, Sunisa Wittayapanyanon, Atsushi Kasuga, Kenji Okano, Wataru Okubo, Yunjin Nam, Yoshimi Miyake, Thuzar Hlaing, Ryuko Taniguchi, Sri Budi Lestari
2. 発表標題 Collaborative collection of multilingual pronoun substitutes and address terms
3. 学会等名 2022 7th International Conference on Business and Industrial Research (ICBIR) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷口龍子, 大久保弥, 野元裕樹, 南潤珍
2. 発表標題 代名詞代用・呼びかけ表現の多言語データセット
3. 学会等名 日本言語学会第164回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshimi Miyake, Hiroki Nomoto, Sri Budi Lestari
2. 発表標題 Pronoun substitution in Javanese, Indonesian, and Malay
3. 学会等名 The 25th International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wataru Okubo, Hiroki Nomoto, Shiori Nakamura
2. 発表標題 A comparison of speech act participant referring expressions in Malay and Japanese
3. 学会等名 The 25th International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto, Ryuko Taniguchi, Shiori Nakamura, Yunjin Nam, Sri Budi Lestari, Sunisa Wittayapanyanon (Saito), Virach Sornlertlamvanich, Atsushi Kasuga, Kenji Okano, Thuzar Hlaing
2. 発表標題 Pronoun substitute annotation in seven Asian languages
3. 学会等名 言語処理学会第29回年次大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷口龍子
2. 発表標題 The speaker's recognition of the speaker-hearer relationship and utterance intention in the Prime Minister's speech about Covid-19: With a focus on the use of address terms
3. 学会等名 Practicing Japan - 35 Years of Japanese Studies in Poznan and Krakow (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sunisa Wittayapanyanon
2. 発表標題 Studies of pronoun substitutes/address terms, and their status leading to teaching Thai as a foreign language
3. 学会等名 The Faculty of Liberal Arts, Thammasat University (LATU) National and International Conference 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroki Nomoto
2. 発表標題 Pronoun substitutes in Malay textbooks
3. 学会等名 CONNECT 21 (National University of Singapore, Center for Language Studies 20th anniversary E-symposium) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡野賢二, 野元裕樹, スニサーウィッタヤーパンヤーノン, トウザライン, 春日淳
2. 発表標題 アジア三言語における代名詞代用・呼びかけ語の共通項目調査
3. 学会等名 言語処理学会第28回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 南潤珍
2. 発表標題 韓国語の人称代名詞及び人称名詞の用法に対する研究-20世紀の小説を中心に
3. 学会等名 2021国語学会・韓国類型論学会共同学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷口龍子
2. 発表標題 The Speaker's Recognition of the Speaker-hearer Relationship and Utterance Intention in the Prime Minister's Speech about Covid-19: With a Focus on the Use of Address Terms, Practicing Japan
3. 学会等名 35 years of Japanese Studies in Poznań and Kraków, International presentation, Adam Mickiewicz University, Poznań / Jagiellonian University in Kraków (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三宅良美、Sri Budi Lestari
2. 発表標題 ジャワ語の自称、対称、呼びかけ語に使われる表現
3. 学会等名 日本インドネシア学会第52回研究大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

〔産業財産権〕

〔その他〕

代名詞代用・呼びかけ表現の共通調査票、多言語データセット、コーパスアノテーション https://github.com/matbahasa/ProSub 代名詞代用・呼びかけ表現の多言語データセット検索サイト https://matbahasa.github.io/ProSub/ https://github.com/matbahasa/ProSub
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野元 裕樹 (Nomoto Hiroki) (10589245)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	ソンラートラムワニッチ ウィラット (Sornlertlamvanich Virach) (20849062)	武蔵野大学・データサイエンス学部・教授 (32680)	
研究分担者	谷口 龍子 (Taniguchi Ryuko) (20570659)	東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	南 潤珍 (Nam Yunjin) (30316830)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	SRI BUDILESTARI (Sri Budi Lestari) (80833342)	立命館アジア太平洋大学・言語教育センター・講師 (37503)	
研究分担者	三宅 良美 (Miyake Yoshimi) (70396547)	秋田大学・国際資源学研究所・教授 (11401)	
研究分担者	春日 淳 (Kasuga Atsushi) (80364925)	神田外国語大学・外国語学部・教授 (32510)	
研究分担者	岡野 賢二 (Okano Kenji) (60376829)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	トゥザ ライン (Thuzar Hlaing) (90868879)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・准教授 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 The 25th International Symposium on Malay/Indonesian Linguistics (ISMIL)	開催年 2022年～2022年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------